

# 暮らしの安心、荒川が守っています

荒川に「利根川の水」が流れていることをご存じですか？

埼玉県・東京都の水をまかなうため、利根川にある利根大堰から取水した水を、休むことなく武蔵水路を通じて荒川まで導水しています。利根川の水とブレンドされた荒川の水は、秋ヶ瀬取水堰で取水されて埼玉県と東京都の約1680万人ののどを潤しています。

私たちの生活に欠かせない水。荒川は、皆さんの「暮らしの水」を支えています。



荒川にある秋ヶ瀬取水堰。ここで取水された水は、埼玉・東京の約1680万人の飲み水になります

## 「東京砂漠」から56年 首都圏の水不足解消と荒川

前回の東京オリンピック直前の夏、東京は「砂漠」と呼ばれるほど深刻な水不足に見舞われましたが、ダムや武蔵水路などの整備によって水不足は解消されました。荒川貯水池「彩湖」も東京2020大会を支えます。

取水制限を伴う渇水は近年も発生していますので、普段から節水を心がけましょう。



前回大会（1964年）直前の大渇水。県内にも深刻な影響が出ました



利根川にある利根大堰。取水した水は武蔵水路によって荒川へ導水されます

荒川が  
暮らしの水を  
支えています

## 都市部に生まれた広大な水辺空間 彩湖は「平地のダム」です

幸魂大橋の眼下に広がる荒川貯水池「彩湖」。

この広大な水辺が「平地のダム」であることをご存知ですか？

洪水を調節する治水機能だけでなく、渇水時には貯めた水を秋ヶ瀬取水堰の上流に補給する利水機能も備えています。

さらに、水不足の際には彩湖に併設する浄化施設を活用し、荒川水循環センターからの処理水をさらに浄化して秋ヶ瀬取水堰の下流に放流することで、上流側からその分を水道用水として取水しています。

詳しくは当事務所のHP「荒川第一調節池の概要」をご覧ください▶



荒川貯水池「彩湖」。広大な水辺空間は、暮らしの水を守る平地のダムです

